

成長分野の太陽電池パネル

組み立て装置販売

アルファードesign

産業用自動化機器製造のアルファードesign（東御市）は、太陽電池パネルを組み立てる装置の製造販売に乗り出した。景気悪化で電子部品メーカーなど従来の顧客が設備投資を抑える中、成長分野に進出し、収益を確保する狙い。補助金の拡充などで販売台数が増えている国内に加え、将来の市場拡大が予想されるアジアに売り込む。

同社は、太陽電池の基幹部品「セル」同士を電気が流れるリボンでつなぐ装置や、並べたセルを樹脂のシートでコ

ーティングし、ガラス板に固定してパネルにする装置、パネルに光を当てて発電状況を検査する装置などを開発。これらを一貫製造ラインに組み立てて販売していく。

ラインの価格は付帯設備に依じて3億〜7億円程度で、既に国内とマレーシアのそれぞれ1企業から受注。商社と連携してアジア市場に売り込んでおり、中国や台湾などの企業から引き合いが来ているという。年間4セットほどの販売を見込んでいる。また、将来の受注獲得につ

アルファードesignが開発した太陽電池パネルを組み立てる装置の一部



なげる狙いで、新興国などで太陽電池メーカーの育成にも乗り出す。佐久市内の太陽電池パネルメーカーと連携して、新規参入する海外メーカーの技術者を招き、技術指導

市内の別の協力企業の工場にアルファードesignのパネル製造ラインを来春をめどに設置する。アルファードesignの2009年6月期の売上高は約20億円で、前期比約3割減。同

社の森沢正良社長は「成長が見込める分野、市場に出て行き、受注を確保していきたい」としている。

キッセイコムテック

事業効率向上へ

子会社吸収合併

システム開発のキッセイコムテック（松本市、神沢鋭二社長）は1日、100%出資の子会社キッセイウエルコム（同、富沢輝雄社長）を同日付で吸収合併したと発表した。経営統合の狙いを「経営資源を集中して事業効率を上げ、予防医療関連の事業を強化する」（キッセイコムテック経営企画室）としている。2003年設立のウエルコムは、予防医療に関するシス